

毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です

～子どもの読書活動を推進しましょう～



読書週間

10月27日～11月9日

2025年 読書週間 標語

「こころとあたまの、深呼吸。」

<作者 磯辺菜々さんのことば>

「めまぐるしい日常に息が詰まるとき、私は本を開きます。心が震え、ため息をつく。ハッと気がつき、息をのむ。ひと息ついて、まためくる。そうしてこころとあたまに酸素が満ちたら、どこまでも遠くへ泳いでいける気がします。」

今年で79回目を迎える「読書週間」は、毎年「10月27日 読書の日」を初日として、11月9日までの「文化の日」を中心とした2週間となっています。

「読書週間」は、1947年に、日本ではじまりました。終戦から2年後、戦火の傷跡が各地に残っていた当時の日本を「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意をもとに開催されました。それから79年を経て「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」となりました。

しかしながら、近年、電子メディアの発達や普及により、子ども達の「読書離れ」が心配されています。4月23日から5月12日の「こども読書週間」と共に、今年の「読書週間」も、多くの子ども達の読書への関心を高めるために、読書習慣の定着の機会となる催しや働きかけを学校、家庭や地域においても行って欲しいものです。

また、各学校におかれましては、来月からの読書週間に向けて、図書委員会等の子ども達と共に、計画や準備をお願いします。
(小学校におかれましては、小学生読書リーダー養成講座へのご参加も併せて、お願いします。)



<ビブリオバトル>

ビブリオバトルとは、知的書評合戦ビブリオバトル公式サイトによると、誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームで「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに全国に広がり、小中高校、大学、一般企業の研修・勉強会、図書館、書店、サークル、カフェ、家族の団欒などで、広く活用されています。

また、以下の公式ルールで定められています。

- 1 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- 2 順番に1人5分間で本を紹介する。
- 3 それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを2~3分間行う。
- 4 全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなかったか?」を基準とした投票を参加者全員が1人1票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする。

福岡市総合図書館では、10月26日（日）に、第7回高等学校ビブリオバトル福岡県大会が、下記のよう開催されます。優勝者は、来年の2月に開催される「第12回全国高等学校ビブリオバトル大会」へ出場予定となっています。当日の観戦は自由になっています。興味のある方は、ぜひ、お越しください。

また、高校だけでなく、大学生や中学生を対象とした全国大会も、毎年、行われています。皆さんも、機会があれば取り組んでみてはどうでしょうか。

<第7回 高等学校ビブリオバトル福岡県大会>

会 場： 福岡市総合図書館 3階会議室

日 程： 10月26日(日)

 <予選> 10:30~12:30 20校が4グループに分かれて実施

 <決選> 14:00~15:00 予選グループ1位の4校で実施

 ※会場への入室は、それぞれ開始10分前まで

参 加 校： 県内の高等学校20校(予定)

※ 観戦は、自由にできますので、興味のある方は、遠慮なく会場へお越しください。

なお、途中の入退場はできませんので、ご注意ください。

あと1週間で10月です。9月半ばをすぎ、少しずつですが、朝晩には秋の気配を感じるようになりました。秋は、「芸術の秋」「スポーツの秋」、そして「読書の秋」。

また、「秋の夜はつるべ落とし」とも言われるよう、本日、23日の「秋分の日」を境に、少しずつ夜の長さが伸びるとともに、日の入りの早まりを感じるようになります。

過ごしやすい気候と長い夜、静かに読書を楽しむには、まさにベストシーズンといえるでしょう。秋の夜長、虫の声を聴きながら、読書に取り組んでみたいものです。

<須藤>



10月のことと人

10月13日「スポーツの日」

「国民の祝日」です。「スポーツを楽しみ、他者を尊重する精神を培うとともに、健康で活力ある社会の実現を願う」ことを趣旨としています。1964年10月10日に東京オリンピックの開会式が行われたことを記念して、1966年に国民の祝日「体育の日」として10月10日に制定されました。その後、祝日法の改正により2000年から「体育の日」は10月の第2月曜日となりました。

10月31日「ハロウィン」

「ハロウィン」または「ハロウィーン」(Halloween)は、古代ヨーロッパの原住民ケルト族を起源とするお祭りです。もともとは秋の収穫を祝い、悪霊などを追い出す宗教的な意味合いのある行事でした。特にアメリカでは、今日、宗教的な意味合いはほとんどなく子どもの祭りとして定着しています。仮装をして戸口で「トリック・オア・トリート」と脅かすのもケルト族の言い伝えからです。

あいはら ひろゆき

(1961.10.1~2022.6.27)

宮城県生まれ。日本の絵本作家、エッセイスト。代表作の『くまのがっこう』シリーズ(ブロンズ新社)は、娘や娘の送り迎えで6年間通った保育園をモデルにして、初めて書いた絵本だったそうです。同シリーズ19作は、累計200万部を超え、フランス、韓国をはじめ海外でも刊行されています。

いもと ようこ

(1944.10.20~)

兵庫県生まれ。日本の絵本作家、挿絵画家。ちぎった和紙の貼り絵に着色する技法によって、やわらかで暖かな表情の人物や動物、植物などを描き、創作童話の作家として活躍すると共に、日本の昔話や世界の名作などの絵本の挿絵なども手がけ、出版された絵本は400冊以上にもなります。1985年度、86年度とボローニャ国際児童図書展エルバ賞を2年連続で受賞しました。

岩崎 京子

(1922.10.26~2025.7.10)

東京生まれ。日本の児童文学作家。1963年、『シラサギ物語』で講談社児童文学新人賞を受賞しデビューしました。1974年、『花咲か』で日本児童文学学者協会賞を受賞。また、小学校国語の教科書に掲載されていた「かさこ地蔵」など、民話の再話も手掛けました。

100歳を超えて、日本の児童文学界の大御所の一人でした。

今西 祐行

(1923.10.28~2004.12.21)

大阪府生まれ。日本の児童文学作家。広島に原子爆弾が投下された際、翌日より救援隊として急行し、広島で5日間過ごしました。「あるハンノキの話」「ヒロシマのうた」「ゆみ子とつばめのおはか」等の作品は、この時の体験から生まれました。代表作の「一つの花」は、国語の教科書に掲載されています。

図書館員のひみつの本棚 第233回

今月はアラスカのむかしばなし絵本です。

『よあけのはこ』

ボブ・サム／語り あずみ虫／絵 谷川 俊太郎／訳 あすなろ書房 2025年

¥2000(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★★☆ 小高学年★★★ 中学生★★★

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

まだ、世界にお日さまも月も星もなかったころ、人間の長老がそれぞれお日さまと月と星を入れた3つの箱を持っていると知ったワタリガラスが、長老の孫に生まれかわりそれらを手に入れようとする。

アラスカやカナダの先住民族「クリンギット族」に伝わる天地創造のむかしばなし。

<子どもに手渡す時のポイント>

クリンギット族には、母親の代から受け継ぐ動物のクラン(家系)があり、このおはなしはワタリガラスのクランの人だけが語ることができるそうです。巻末にクリンギット族についての解説や、この本ができる経緯が書かれているので、併せて紹介すると子どもたちに興味を持ってもらえると思います。

アルミ板をカッティングする技法で描かれた絵は個性的で、文章もよいので、少し上の年齢の子どもへの読み聞かせにもおすすめです。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。